

LIFE LIGHT LOVE

TOHOKU GAKUIN 2026 New Year Message



未来へ駆ける、 躍動の年へ

中学校・高等学校 校長 帆 足 直 治

皆さま、明けましておめでとうございます。昨年同様、二〇二六年が皆さまにとって、実り多き素晴らしい年となりますよう、心から祈念申し上げます。

昨年は、米国による追加関税などの保護主義的な政策が世界経済に不確実性をもたらし、貿易摩擦を激化させ、世界的な課題に対する国際協力が後退し、グローバルゼーションが低下してまいりました。ま

た、中東やウクライナなどの紛争が長期化し、地政学的な緊張が続いています。日本でも政治不信がことさら顕著化し、新政権が発足したものの、物価高騰、少子高齢化や、地方創生の推進、脱炭素社会への移行、そして対外政策の方向性が議論されるなど、未来を見据えた国のグランドデザインを描く重要な局面を迎えています。教育界でも、社会の多様化に対応する

学び方や教員の働き方改革、日本の将来を担う子どもたちに必要な学びと学校の役割などについて多くの場面で議論が行われ、今後の教育活動の展開に関心が高まっています。

共学四年目を迎えた中学校・高等学校では、共学一期生の進路面での顕著な成果を自信に教育改革を進め、本年度は近年求められている「個別最適な学び」への対応として、「同時双方向型の遠隔授業」を全面実施しております。また、東北学院大学、東北大学とも提携し、アントレプレナーシップ(起業家育成)のプログラムを取り入れ、東北医科薬科大学との連携により中学生から本物に触れる医学・薬学の実験講座を始めております。今後は、各大学とも

連携し、データサイエンスなどを教育課程に盛り込む計画も進めております。本校の掲げる「未来学力の育成」とは従来の学力に加え、「主体性」「多様性」「創造性」を柱に、これから予測される社会を想定しながら、社会に必要な力を子どもたちに養成していくことを使命と考え、さまざまな教育プログラムのなかで盛り込んで行っているところです。

部活動も大いに成果を上げています。中学校では空手、バスケ、柔道、水泳、弓道、放送、高校では空手、囲碁将棋、弓道、体操、陸上、水泳、バスケ、鉄道研究、軽音楽、フェンシングなど多くの部で男女問わず全国大会に進出し成果を上げてきています。中でも高校陸上部女子の三年連

続全国入賞は、本校にとって新しい時代の幕開けを象徴する快挙でありました。諸大会の出演に際しては多くの皆さまからご声援、ご支援をいただきました。この場をお借りし御礼申し上げます。

最後に、今年の干支は「丙午(ひのえうま)」であります。「情熱的で強い意志を持ちながらも、激しさや変化を伴う」といった意味合いを持つ年とされます。本校でも、建学の精神である「キリスト教的な人格の陶冶」を柱に、これからも未来志向で生徒中心の学校づくりに邁進し、変化を恐れず、社会に選ばれる学校づくりを目指して参ります。本年もみなさま方の変わりぬくご支援をお願いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。



新たな環境の下で

榴ヶ岡高等学校 校長 河 本 和 文

明けましておめでとうございます。旧年中の皆さまのご支援・ご協力に改めて感謝申し上げますとともに、本年も皆さまが充実した一年となりますよう心より祈念申し上げます。

さて、本校は昨年四月に、一九七二年八月より使用してきた校舎から、東北学院大学で使用していた泉キャンパス(二号館)に移転し、新たな環境の下で教育活動をスタートさせることができました。生徒たちは、広く伸び伸びとした恵まれた環境の下、「大学生のようなキャンパスライフ」を送っています。朝は直接音楽室に集合し、出欠確認の後、パイプオルガンの響きを聞きながら礼拝に参加し気持ちを整えた後、そこから一時限目の授業が行われる各教室に移動し、今後激しく

変化していく社会で力強く生きる力を育み成長していくことを目標として、授業を受ける一日が始まります。本校が二〇二三年に、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実現に向けて導入した進学重視型単位制においては、二号館の各階にある大きな教室がフル活用され、三年次にコースの垣根を越え、それぞれの進路希望に合わせた選択科目が効率的に実施されています。それぞれのクラスの教室もとても広く、旧校舎で使用していた机と椅子が配置され授業を受けるスペースと、主体的・対話的な深い学びを実現するためのミーティングスペースを併設させた素晴らしい環境になっていきます。

昨年夏に行われた第百六回全国高等学校野球選手権大会宮城大会では、本校野球部がおかげさまで三十三年ぶりに決勝戦に駒を進めることができました。決勝当日は、本校生徒や卒業生、保護者だけでなく、東北学院同窓会や東北学院関係の方々も含め、大変多くの方が球場に駆け付けてくださり応援をいただきました。その頃に募集していたオープンキャンパスの申込者は、あっという間に満員となり、野球部の活躍も、本校の特色のアピールに十分な効果を発揮し

てくれました。本校は、学院を心から愛する大変多くの方々を支えられていて、本校の魅力も少しずつではありますが、多くの方に周知されてきている実感も持てました。今後とも、本校がさらに魅力ある学校としてアピールできるよう努めて参りますので、引き続き温かいご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

二〇一九年に導入したコース制は八年目を迎へ、本校の特色を象徴する体制となつてきています。特に、TG選抜コースでは東北学院大学進学に向けて、魅力ある教育活動が多く行われております。入学直後から東北学院大学と連携し、大学の先生方から東北学院の歴史、建学の精神についての講義を受け、大学の各学部・学科のガイダンス、大学の授業体験、課題研究の指導、自治体との共同研究、企業の現場見学など、TGタイムと称した総合的な探究の時間でさまざまな連携活動が行われています。この教育を通して大学で学ぶ意識が向上した生徒で、TG併設校推薦(東北学院大学への内部進学)を希望する者は、課外講習を受けなが



未来を創る力

幼稚園 園長 島 内 久 美 子

新年のご挨拶を申し上げます。昨年中は、本園の教育活動に温かなご支援とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

本園は建学の精神に基づき、「礼拝」を通して人格教育を行っています。毎日クラスで祈り、週に一度の合同礼拝では全園児で賛美の声を合わせ、聖書のみ言葉を聞き、日頃賑やかな子どもたちも、礼拝の時間は心静かに耳を傾けます。年に数回ある特別伝道礼拝では、宗教センターチャプレンや設置学校の宗教主任の先生にメッセージをいただくなど、礼拝を通して設置学校・

法人との連携を深めています。クリスマス礼拝では、毎年園児による聖劇がささげられ、一生懸命覚えた歌やセリフを話す園児の誇らしげな表情と、それを見守る保護者と教職員によって愛に溢れる礼拝となります。十五年前からはその中に、東日本大震災追悼礼拝も加わりました。小学校入学を控えた年長児と共に追悼の祈りを捧げ、震災を風化させず、災害時に身を守る術も伝えていきます。

本園には「十五年後のあなたへ」という冊子があります。それは東日本大震災発生

の年、当時の教頭が保護者に働きかけ、震災時の状況や未来の子どもたちへ向けた思いが綴られたものです。震災から十五年、当時在園していた園児は十八歳、十九歳、二十歳になりますが、この子どもたちは世界的なパンデミックにより、再び当たり前の生活、必要な経験を奪われませんでした。幼い時期と思春期に、先の見えない不安の中で生きることを強いられ、子どもたちに、明るい未来を、そして笑顔で自分の道を歩み続けられることを祈り続けています。

現在、困難の多い未来に向かう子どもたちが、それぞれの道を自分の力で生きることができるよう力を育もうと、OECD(経済協力開発機構)が「Education 2030」を立ち上げ、現在、「ラーニングコンパス(学びの羅針盤)」が提唱され国際的に大きな流れとなつています。このプロジェクト誕生の背景には東日本大震災があり、教育で子

どもたちを支援しようとしてOECDが立ち上げた「東北スクールプロジェクト」がきっかけの一つとなつたという事は広く知られています。未来を見据えた世界的な教育の転機が東北の地から始まり、それを担ったのが震災当時の福島県、岩手県、宮城県の中高校生でありました。「東日本大震災の復興教育とOECD東北スクール」(福島大学人間発達文化学類発行)の巻頭に、当時中学二年生だったメンバーの言葉が記されています。(以下原文抜粋)

「私にとって「東北スクール」は「このままではいけない」という始まりです。今まで不安そうなお母さんや大人の方たちを、た見ていただけたかった私たちに、何が出来るだろうか。この大好きな福島のために、何をしなければならぬのだろうか。この東北スクールに参加させていただき、たくさんの大人の方々の協力を得て、

私たち今できる最高のことを考えていきたいと思う。」

この言葉は、困難が起こった時にも、子どもや若者の力によって未来が開かれるであろうことを信じさせてくれます。

未来を創る本園の園児も「ラーニングコンパス」において重要としている「新たな価値を創造する力」を育む根拠として、子どもが発見した思いや事象に心から共感し、「対立やジレンマを克服する力」の糧となる困難が立ちだかた時に、自分で考えることを側で支えること、「責任ある行動をとる力」の根拠を支える自己肯定感を育む、神に愛されているかけがえのない一人であるということ、伝えていきたいと思ひます。

最後になりましたが、皆さまのご多幸をお祈り申し上げます、年頭のご挨拶とさせていただきます。

最後に、今年度の干支は「丙午(ひのえうま)」であります。「情熱的で強い意志を持ちながらも、激しさや変化を伴う」といった意味合いを持つ年とされます。本校でも、建学の精神である「キリスト教的な人格の陶冶」を柱に、これからも未来志向で生徒中心の学校づくりに邁進し、変化を恐れず、社会に選ばれる学校づくりを目指して参ります。本年もみなさま方の変わりぬくご支援をお願いし、年頭のご挨拶とさせていただきます。